

令和元年6月10日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01900

研究課題名(和文) 日本古墳研究リソースを活かした墳丘墓築造と社会関係の国際研究展開

研究課題名(英文) International comparative approach to the relationship between mounded-tomb building and society utilizing the resources of Japan's kofun research

研究代表者

福永 伸哉 (FUKUNAGA, Shin'ya)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50189958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の豊富な古墳時代考古資料を活用し、人類史における墳丘墓築造の多様な歴史的意義を解明することを目的として遂行された。世界の墳丘墓文化と比較した結果、日本の古墳文化は、長さ200m以上の巨大墳丘墓が世界で最も多く造られていること、墳丘の形態や規模の著しい多様性によって王を頂点とする政治的秩序が表現されていることなどの点で、人類史上できわめて珍しい特徴を有していることが明らかになった。そして、この古墳文化の特異性は、日本の国家形成が征服戦争の結果ではなく地域社会の統合という形で達成されたこと、統合の証として葬送儀礼の共有が重要な役割を果たしたことによると考えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の中心的な学術的意義は、従来、内国史的な理解に留まっていた日本古墳文化の特質について、世界の墳丘墓文化との比較を通じて人類史レベルで明らかにしたことである。すなわち、日本古墳の比類なき巨大性と墳丘形態・規模の秩序立った多様性は世界的に見てもきわめて特異であり、古墳という儀礼記念物を媒介として社会統合と王権の地域統治を実現した点と相まって、日本古墳文化の顕著な特質であるとの理解を提示した。また、墳丘の立体的な情報を重視した世界初の墳丘墓三次元データベースを構築したことも特筆できる。これらの成果は、現在国が進めている大阪府百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の作業にもきわめて有用である。

研究成果の概要(英文)：The goal of this research was to utilize the significant amount of Japan's Kofun-period archaeological material in order to clarify the historical significance of mounded-tomb building within human history. Comparison with the mounded-tomb building cultures of the world revealed that the mounded tomb (kofun) culture of Japan was unique: not only is Japan home to the greatest number of mounded tombs throughout the world measuring over 200m in length, but the shape and size of the tombs represented the political hierarchy centered on the paramount king. Furthermore, this unique nature of the kofun culture derived from the fact that Japan's state formation was accomplished through regional consolidation rather than through warfare, and that this widespread integration was represented in a set of shared mortuary rituals.

研究分野：考古学

キーワード：古墳 墳丘墓 データベース 国際比較 万籟山古墳 文化遺産

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

古墳時代研究は豊富な調査資料と研究蓄積を有する日本考古学の中心的分野の一つであり、とくに第二次大戦後の発掘調査事例の蓄積、出土資料の型式学的・編年的研究の進展を基礎にして、古墳の出現がヤマト政権の成立と軌を一にすること、墳丘形態と規模が被葬者の社会政治的地位を示すこと、古墳時代社会を初期国家として位置付けられることなどが提唱され、日本古代史研究の上では大きな成果をあげてきた。しかし、そうした成果も国際的にはほとんど認知されておらず、世界考古学になんらの貢献もなしえてないという現状がある。豊富な考古資料から実証的な議論が可能な日本古墳時代研究の利点を活かして、人類史における墳丘墓築造の意義を提示するという作業が、きわめて有望であるとの認識のもとに、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究の全体構想は、日本発の「世界墳丘墓考古学」を世界考古学の主要テーマとして確立し、古墳時代研究の新たな地平を開拓することである。この構想の下に実施する4ヶ年の研究の具体的な目的は、古墳時代研究成果を他地域の墳丘墓文化と比較しながら、人類史における墳丘墓築造の多様な実態と意義を解明すること、墳丘墓三次元データベースを開発し、墳丘形態を重視した国際的資料基盤を構築すること、日本考古学の独創的方法である「首長古墳系譜分析」の良好なフィールド調査を遂行し、ヤマト政権下の地域関係を解明するとともに、成果の国際発信を通じて古墳時代考古学の国際展開の基礎を築くこと、世界の事例比較を通じて、墳丘墓遺跡を人類の文化遺産活用に供する理念と方策を探求すること、の4点である。

3. 研究の方法

上述の4つの具体的な目的に対応するように、墳丘墓築造と社会関係の国際比較、世界墳丘墓三次元データベースの開発、畿内北部の猪名川流域の古墳調査プロジェクト、墳丘墓ヘリテージマネジメントの国際比較の4研究テーマグループを構成し、各々に明確な作業課題を設定して検討・解明にあたる。研究活動は、各グループ責任者を中心に調査研究・フィールドワークを進め、併行して組織内の定期的な研究集会および国内外のワークショップ・学会・シンポジウム・Web等で成果を発表・討論する方式を基本とする。そして、最終年度には、日本古墳を軸に世界の墳丘墓築造を比較する国際シンポジウムの開催、日本古墳と欧州墳丘墓を比較した国際共著図書(英語)の出版、総括報告書(日本語)の刊行を目指すこととした。

4. 研究成果

(1) 墳丘墓築造と社会関係の国際比較

墳丘墓をさかんに築いた文化を有する日本、韓国、中国、中央アジア、欧州、エジプト、北アメリカなどと比較し、人類の墳丘墓築造と日本の古墳文化の特質を検討した。

墳丘の巨大性という点では、旧大陸では100m級を超えるものがない欧州、韓国などに対して、日本、中国、中央アジア、小アジア、エジプトなどでそれ以上のものが見られ、対照的である。とくに200m級以上になるときわめて限られた存在となり、日本の巨大前方後円墳37基を除けばその数は10基に満たない。日本古墳の巨大性については、同時代の韓国の山城のような防御施設が不明瞭であることから、大陸の軍事的緊張状態からやや距離を置いた歴史的環境のなかで、王権内部の競争的状況を含みながら、墳丘による権力表示が特異に発達した事例と位置付けられる。なお北アメリカでも、イリノイ州カホキア遺跡で長径300mを超えるマウンドが存在するが、その機能がなお不明確であり、世界の個人墳丘墓との直接的な比較は難しい。

墳丘形態の点では、4形態の墳丘がある日本古墳時代と、ピラミッドとマスタバ墓が併存するエジプト古王国時代をなど除けば、同一文化内に異形態の墳丘が見られる例は、一般的でない。ただし、エジプトでピラミッドとマスタバ墓が共存するあり方はナイル川西岸「メンフィス・ネクロポリス」に限られており、広域で異形態の墳丘が認められる日本との違いがある。

このように日本の古墳築造は墳丘の巨大性と多様性の点で顕著な特質を有している。墳墓モニュメントに社会政治構造を表示させることで王権の統治機能の一端を担った日本古墳は、特異ではあるが人類史上において墳丘墓築造の明確な1タイプをなすと理解できる。

(2) 世界墳丘墓三次元データベースの開発

日本の古墳時代研究は、世界でもっとも墳丘形状を重視する研究により、古墳の墳形と規模で階層関係や政治関係が表示されることが明らかにしてきたが、このような日本古墳の特質について海外では十分に理解されていない。そこで、墳丘形態を重視した国際的資料基盤を構築することを目的として、日本の古墳に加え世界各地の墳丘墓も対象に、等高線図やデジタル計測データなど多様な墳丘形状情報から3Dモデルを作成し、3Dアニメーションを含む世界規模の墳丘墓170件のデータベース(日本古墳154件、海外墳丘墓16件)を開発した。日本でこれまで墳丘形状の情報として利用されてきた紙ベースの等高線図からモデルを作成する場合と、デジタル計測データを利用してモデルを作成する場合について、適切な手順や留意点・課題を明確にした。



図1 大山古墳の3Dデータベース

(3) 畿内北部の猪名川流域の古墳調査プロジェクト

日本古墳時代研究の独創的な方法である「首長古墳系譜分析」のアプローチによって、猪名川流域の地域間の勢力変遷を明らかにする目的で、兵庫県南東部の長尾山丘陵の前期古墳のフィールド調査を行い、宝塚市万籟山古墳の初めての発掘調査によって墳丘規模・築造時期を解明したこと、新発見の同市八州嶺古墳について表面調査・測量調査によって墳丘長70m以上の前期前方後円墳であるとの見通しを得たこと、川西市小戸遺跡出土埴輪の整理分析によって前期中葉以前の古墳の存在を推定できたことなどの成果があった。これらの知見により、猪名川流域において長尾山丘陵地域が古墳前期の段階の当流域で優越的な存在であったこと、当流域の前期古墳のさかんな築造の背景に猪名川南北ルートの交通上の有用性を重視した初期ヤマト政権と当流域勢力の間の密接な連携を指摘した。

(4) 墳丘墓ヘリテージマネジメントの国際比較

おもに欧州における墳墓遺跡を含むヘリテージマネジメントと日本の古墳の「保存活用」について比較した。マネジメントを支える基盤ともなる調査研究情報については、スウェーデンやドイツを代表に国レベルでオープンアクセスの文化遺産データベースが完備しているのに対して、日本は情報を自治体ごとに保有するケースが多く、その一体化が大きな課題である。また、欧州の一部では遺跡データと古地図・古生態学的データとの統合が進み、Webを通じてこれを学校教育にも活用している例がある。地域コミュニティとのかかわりという点では、発掘調査の現地説明会や体験学習、「古墳まつり」などの地域イベントなどを通じて、古墳と地域の強い結びつきが見られる日本のあり方は、欧州の墳丘墓遺跡にはない要素である。これらの取り組みは国際的にも注目されており、世界のロールモデルになり得る可能性を有している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 45 件)

Shin'ya Fukunaga, Mounded Tombs of the Kofun Period: Monuments of Administration and Expressions of Power Relationships, *Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*, 査読無、単行、2018、pp.195-204

Akira Seike, Mounded Tomb Building during the Kofun Period: Location and Landscape, *Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*, 査読無、単行、2018、pp.110-117

Ken'ichi Sasaki, Social Stratification and the Formation of Mounded Tombs in the Kofun Period of Protohistoric Japan, *Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*, 査読無、単行、2018、pp.87-99

Tatsuo Nakakubo, Excavating the Mounded Tombs of the Kofun Period of the Japanese Archipelago: A History of Research and Methods, *Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*, 査読無、単行、2018、pp.31-46

高橋 照彦, 後期前方後円墳の諸相とその背景、境界の考古学、査読無、単行、2018、pp.337-348

上田 直弥, 摂津前期古墳の葺石と内部構造、待兼山論叢、査読有、第52号、2018、pp.29-55

佐々木 憲一, 古墳時代考古学による欧米国家論の検証、理論考古学の実践、査読無、単行、2017、pp.81-99

福永 伸哉, ヤマト政権成立期における猪名川ルート的重要性、待兼山論叢、査読有、50、2016、pp.1-27

ARAKAWA Masaharu, The Silk Road Trade and Traders, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 査読無、74、2016、pp.29-59

黄 曉芬, 棺槨説、記念馬王堆漢墓発掘四十周年国際学術研究会論文集、査読無、単行、2016、pp.61-70

[学会発表](計 48 件)

上田 直弥, 前期首長墓の系列展開と埋葬施設構造の変遷、古代学研究会3月例会、2019

福永 伸哉, 日本列島の古墳、歴博国際シンポジウム(国際学会)、2018

佐々木 憲一, 北アメリカ先史時代のモニュメント、歴博国際シンポジウム(国際学会)、2018

清家 章, 社会変化とモニュメント、歴博国際シンポジウム(国際学会)、2018

中久保 辰夫, 福永 伸哉, 高橋 照彦, 上田 直弥, 猪名川流域における前期古墳の築造動態
万籟山古墳発掘調査による新知見を基礎として、日本考古学協会第84回総会、2018

FUKUNAGA Shin'ya, Mounded tombs as a window into the early state formation of Japan, ANTHROPOLOGY OCCASIONAL SEMINAR SPRING 2018: Archaeological Approaches to State and Society in Ancient Japan (招待講演)(国際学会)、2018

荒川 正晴, ユーラシア東部における仏教伝来と冥界観の形成、第43回東洋史懇話会大会(招待講演)、2018

NAKAKUBO Tatsuo, Methods and approaches in Japanese archaeology excavating mounded tombs and reconstructing ancient history, ANTHROPOLOGY OCCASIONAL SEMINAR SPRING 2018: Archaeological Approaches to State and Society in Ancient Japan (招待講演)(国際学会)、2018

福永 伸哉、古代日本の古墳築造と社会関係、日本西アジア考古学会設立 20 周年記念セッション (招待講演) 2017

FUKUNAGA Shin'ya、Bronze Mirrors as Status Symbols in the Process of Early State Formation、2nd Conference of the European Association for East Asian Art and Archaeology (国際学会) 2017

SASAKI Ken'ichi、Distributing the “Standard” of Mound Construction to Local Elites as an Example of Inalienable Wealth、2nd Conference of the European Association for East Asian Art and Archaeology (国際学会) 2017

SEIKE Akira、Analyses of Internal Burial Facilities as an Approach to Social Stratification、2nd Conference of the European Association for East Asian Art and Archaeology (国際学会) 2017

FUKUNAGA Shin'ya、The role of foreign prestige goods in the formation of the Yamato、Society for East Asian Archaeology (国際学会) 2016

FUKUNAGA Shin'ya、Mounded Tombs of the Kofun period: Monuments of Administration and Expressions of Power Relationships、8th World Archaeological Congress (国際学会) 2016

福永 伸哉、古墳時代の大王陵と世界の王墓、世界考古学会議東京シンポジウム、2016

高橋 照彦、古事記・日本書紀と天皇陵、国際共同シンポジウム モノと文献でわかる古代・わからない古代 (招待講演)(国際学会) 2016

NAKAKUBO Tatsuo、Social change and the introduction of continental craft technology、Society for East Asian Archaeology (国際学会) 2016

NAKAKUBO Tatsuo、Political changes between center and periphery as seen from the mounded tombs of Japan、8th World Archaeological Congress (国際学会) 2016

KADOBAYASHI Rieko、Why it 's not easy to create a 3D database of tumuli?、8th World Archaeological Congress (国際学会) 2016

SASAKI Ken'ichi、Adoption of a Practice of Horse-Riding in Fifth Century Japan、Society for East Asian Archaeology (国際学会) 2016

⑲ SASAKI Ken'ichi、Regional Difference in Elite Symbolism during Kofun Period Japan、8th World Archaeological Congress (国際学会) 2016

⑳ 黄 晓芬、中国古代都城と陵墓の研究、中国江蘇師範大学歴史文化学院特別講演 (招待講演) (国際学会) 2016

㉑ 福永 伸哉、Mounded Tombs of the Kofun Period: Monuments of an Administration and Expression of Power Relationships、International Workshop at the Eberhard Karls University Tübingen (国際学会) 2015

㉒ 佐々木 憲一、Social Stratification during the Kofun Period, Japan、International Workshop at the Eberhard Karls University Tübingen (国際学会) 2015

㉓ 中久保 辰夫、Excavating Mounded Tombs of the Kofun period in Japan: History of Research and Methods、International Workshop at the Eberhard Karls University Tübingen (国際学会) 2015

〔図書〕(計 12 件)

福永 伸哉、清家 章、高橋 照彦、中久保 辰夫、黄 晓芬、荒川 正晴、高宮 いづみ、岡村 勝行、佐々木 憲一、門林 理恵子、上田 直弥、大阪大学大学院文学研究科、日本古墳研究リソースを活かした墳丘墓築造と社会関係の国際研究展開、2019、220

Thomas Knopf、Werner Steinhaus and Shin'ya Fukunaga、Archaeopress、*Burial Mounds in Europe and Japan; Comparative and Contextual Perspectives*、2018、225

清家 章、吉川弘文館、埋葬からみた古墳時代 女性・親族・王権、2018、265

Teruhiko Takahashi、Tatsuo Nakakubo (eds.)、Osaka University Press、*Nonaka Kofun and the Age of the Five Kings of Wa : The Government and Military of 5th-Century Japan*、2016、105

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kouko/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：高橋 照彦

ローマ字氏名：(TAKAHASHI, Teruhiko)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：大学院文学研究科

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 10249906

研究分担者氏名：荒川 正晴

ローマ字氏名：(ARAKAWA, Masaharu)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：大学院文学研究科

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 10283699

研究分担者氏名：佐々木 憲一

ローマ字氏名：(SASAKI, Ken'ich)

所属研究機関名：明治大学

部局名：文学部

職名：専任教授

研究者番号 (8 桁): 20318661

研究分担者氏名：黄 曉芬

ローマ字氏名：(HUANG, Xiao-fen)

所属研究機関名：東亜大学

部局名：人間科学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 20330722

研究分担者氏名：中久保 辰夫

ローマ字氏名：(NAKAKUBO, Tatsuo)

所属研究機関名：京都橘大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号 (8 桁): 30609483

研究分担者氏名：清家 章
ローマ字氏名：(SEIKE, Akira)
所属研究機関名：岡山大学
部局名：大学院社会文化科学研究科
職名：教授
研究者番号(8桁)：40303995

研究分担者氏名：高宮 いづみ
ローマ字氏名：(TAKAMIYA, Izumi)
所属研究機関名：近畿大学
部局名：文芸学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：70221512

研究分担者氏名：岡村 勝行
ローマ字氏名：(OKAMURA, Katsuyuki)
所属研究機関名：公益財団法人大阪市博物館協会
部局名：大阪文化財研究所
職名：事務所長
研究者番号(8桁)：70344356

研究分担者氏名：門林 理恵子
ローマ字氏名：(KADOBAYASHI, Rieko)
所属研究機関名：大阪電気通信大学
部局名：総合情報学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：70358886

研究分担者氏名：上田 直弥
ローマ字氏名：(UEDA, Naoya)
所属研究機関名：大阪大学
部局名：大学院文学研究科
職名：助教
研究者番号(8桁)：70823780

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。